

図画工作科学習指導案

安浦町立三津口小学校

指導者 下重千香子

1 対象学年 第1学年

2 題 材 名 くしゃくしゃがみから うまれたよ

3 題材について

- 紙は、私たちの生活の中で必要不可欠な存在であり、多種多様に活用されている。その中で、紙は子どもたちにとってとても身近な素材である。子どもたちの周りには、本、ノート、色紙、画用紙、新聞紙など平面的に使われているものが多く、図画工作科の活動においても紙に描く、紙を折る、切る、はるなど平面の紙を扱った活動が多い。

この題材は、子どもたちに、平面の紙を意図的にくしゃくしゃにすることで粘土のように立体的な表現もできることを知らせ、紙の特性に気づかせ、紙を使った表現の可能性を広げることができる考える。そして、紙を丸める、ねじる、ちぎる、ひっぱるなどの活動は、造形的な遊びの要素が多分にあり、子どもたちが楽しみながら活動できることが期待できる。更にその活動の中で偶然にできる形から、子どもらしい発想を広げつつ、自分が知っているものに見立てたり、想像力を働かせ思いついたものをイメージにそって表したり試したりしながら、自分の思いを表現する喜びや紙から形あるものができる楽しさが味わえるであろう。こうした紙との新しい出会いは、子どもに表現活動への興味をもたせ、創作意欲を高めることにもつながると考える。

また、自分の思いが楽しく表現できた子どもたちは、「他の友だちに見てもらいたい」「先生にお話したい」などと相手に自分の思いを伝えたいという気持ちが生まれ、自分の作品に関心を持ち始めるであろう。子どもたちが、自分が表現しなかったことを友だちに話したり、友だちの思いを聴いたりしてお互いのよさを共感できる題材である。

- 本学級の児童は、全体的に絵をかいたりものを作ったりすることが好きで、自分の世界に入り込んで楽しく想像をふくらませることができる子どもが多い。しかし、参考作品に強く影響されたり、生活経験や造形経験が少ないために自分の表現したいことが思うように表現できなかったり、題材によってはイメージが広がりにくい時もある。また、学習課題が十分把握できにくい子や用具の扱いに慣れていない子どももいる。しかし、入学してから今までの造形活動を通してみると、表現することに抵抗を感じていた子どもも、一つ一つ作品を完成させ経験を積み重ねることで、表現する楽しさを体感し、表現することへの自信を持ちはじめてきている。
- 指導にあたっては、まず平面の紙を「くしゃくしゃ」にする抵抗感をや

わらげるため、色々なしわの作り方の指導も取り入れながら新聞紙となかよく遊ばせる。またそれと同時に、紙を使った造形活動への関心も高めておく。そして、導入時においては、子どもたちが魔法使いになり、紙に魔法をかけながら自分の作りたいものを作っていくという場を設定し、学習課題をはっきりとらえさせるとともに創作意欲を高めるようにする。

また、手で紙を「くしゃくしゃ」にしながら自分の好きな形を作っていくことは、自分の手で二次元の平面を三次元の立体にかえていくことであり、それはまるで魔法によって紙に新しい命が吹き込まれるような不思議さがある。子どもたち一人ひとりが作った「不思議な形」は自分の手から生まれた大切な命であることを知らせ、作品を大切に作る心情も育てたい。

表現活動においては、自分の表したいものがのびのびと表現できるように扱いやすい色々な大きさや色の紙を用意し、自分が使ってみたいものを選ぶように幅のある材料を準備する。そして、子どもがイメージしたものを大切にし、紙がどんなものになっていくのか子どもたちと共に楽しみながら指導していきたい。また、自分が作りたいものに近づけるためにはどのように工夫すればよいかわからない子どもや、材料の選び方、紙と紙の接合方法、道具の使い方など特に基礎的な操作でつまづいている子どもについては、一人ひとりていねいに指導していきたい。

鑑賞の指導では、活動中でも活動後でも、子どもたちがお互いの作品を認め合ったり、喜び合ったりできる場を設定する。そして、それぞれの作品のよさが活かせるような展示方法を工夫する。

4 題材目標

- 身近な材料に関心をもち、進んで想像力を働かせ、イメージしたものを作る楽しさを味わわせるようにする。（造形への関心・意欲・態度）
- 材料の形や色などの特徴を活かし、イメージをふくらませながら自分らしい表現を工夫するようにする。（発想や構想の能力）
- 自分が選んだ材料からイメージを広げ、自分が作りたいものを楽しく作るようにする。（創造的な技能）
- 自分や友だちの表現のよさを見つけ合うようにする。（鑑賞の能力）

5 評価規準

	評 価 の 観 点	評 価 の 規 準
--	-----------	-----------

ア	造形への関心・意欲・態度	自分が選んだ材料をもとに楽しく想像して、思いのままに表すことを楽しもうとする。
イ	発想や構想の能力	形や色から自由に発想し、自分らしく想像を広げる。
ウ	創造的な技能	材料を自ら選び、思いついたことを形にしたり、作り直したりしながら自分の表し方を見つけ、試す。
エ	鑑賞の能力	自分の作品について説明したり、友だちの表したかったことを聴いたりして楽しく観る。

6 指導計画（全3時間）

次	ね ら い	時数	主な学習活動	評価
第一次	紙を使って、立体的な表現をしていくことに興味・関心をもたせる。	1	- 新聞紙を使って、色々な形を作って遊ぶ。 - 新聞紙で楽しく遊びながら、立体的な形ができることを知る。	ア イ エ
第二次	自分の選んだ紙に魔法をかけ、偶然にできた形からイメージをふくらませ、自分の作りたいものを楽しく作る。	2 (本時 1/2)	- 自分のイメージを広げながら、表現を工夫し、作りたいものを楽しく作る。 - 自分で材料を選び、偶然にできた形から発想をふくらませて作る。 - 自分や友だちの作品のよさに気づく。	ア イ ウ エ

7 本時の目標

- 自分で材料を選び、偶然にできた紙の形からイメージをふくらませ、自分の表したいことを工夫しながら楽しんで作る。

8 準備物

（児童） はさみ，のり，のり台，クレパス，手拭き布，ゴミ袋など

（教師） 紙類〔模造紙，色画用紙，和紙，色紙，お花がみ，包装紙など〕

接着剤，輪ゴム，ホッチキス，マジック，セロハンテープ，カットパンなど

9 学習の展開（本時 1/2）

学 習 活 動	教師の支援（○）と評価（ ）
1 学習課題をつかむ。	○風呂敷のマントをつけさせ、「紙に魔法をかけてみよう」と呼びかけることにより、楽しく意欲的に活動できる雰囲気を作る。
『見て見て！ 魔法をかけると 紙が○○に 生まれかわったよ！』	
2 自分で紙を選び、魔法の呪文をかけながら、紙に新しい命を吹き込み、色々な形を作っていく。	○できた形から色々なものを想像して発表し、友だちの思いを聴き合う時間をとる。友だちの意見を聴き、よりイメージを広げることができたか。（イ） ○紙で手を切ることもあるので、安全面に留意する。 楽しんで形づくりができたか。（ア）
3 できた形や色からイメージを広げ、知っているものに見立てたり、思いついたものを工夫しながら作る。	○子どもたちの思いを丁寧に引出し、それぞれのよさを認め、「○○がすごいね。」「○○がいいね。」などと具体的に励ます。また、イメージが膨らませにくい子どもには、イメージの掘り起こしなど支援する。 ○友だちと協力している活動や自分の思いを工夫しながら表現している活動を紹介する。 ○基本的な用具の使い方やより良い接合方法などを工夫しながら作っていくことの大切さを知らせる。 できた形をもとに工夫しながら作りたいものを作ることができたか。（ウ）
5 後片付けをする。	○後片付けの習慣が身につくように個人用のゴミ袋を用意させておく。